



仙台市水道局マスコットキャラクター

ウォーターくん

平成 25 年度事業報告

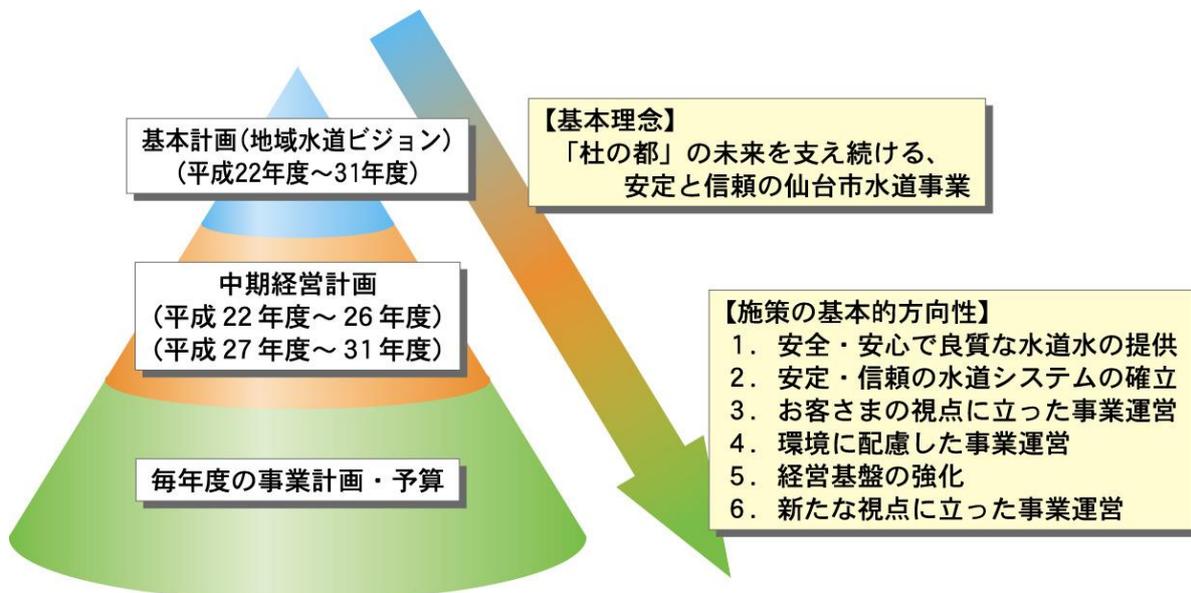
仙台市水道局

1. はじめに

- 仙台市水道局では、平成 22 年 3 月に策定した「仙台市水道事業基本計画（平成 22 年度～平成 31 年度）」（以下「基本計画」という。）及びその実施計画である「仙台市水道事業中期経営計画（平成 22 年度～平成 26 年度）」（以下「中期経営計画」という。）に基づき、優先的・重点的に取り組んでいく 6 つの「施策の基本的方向性」を踏まえ、各年度の事業に取り組んでいます。（図 1）

このたび、平成 25 年度における事業の実績がまとまりましたので、お知らせいたします。

図 1 仙台市水道事業の計画体系



2. 決算の概況

- 本年度の水道事業は、「仙台市水道事業中期経営計画」（平成 22 年度～平成 26 年度）に基づき、東日本大震災の総括も踏まえ、災害に強い水道施設整備や経営基盤の強化を図りながら、お客さまへの安全で良質な水の安定供給に努めてまいりました。
- 事業実績につきましては、年間総配水量が 1 億 2,024 万 5 千立方メートル、前年度比 153 万 9 千立方メートル（1.3%）減、年間有収水量が 1 億 1,320 万 2 千立方メートル、前年度比 27 万 8 千立方メートル（0.2%）減となり、有収率は前年度より 0.9 ポイント向上して 94.1%となりました。
- 経営面につきましては、官民連携による小水力発電事業の着手や省エネルギー型機器への切り替え拡大など、環境に配慮した事業運営を推進するとともに、水道修繕受付センターや地元密着型水道修繕登録店制度の創設準備など、お客さまサービスの向上や経営の効率化にも努めました。
- 次に、建設改良事業につきましては、配水管整備事業で、老朽铸铁管等更新工事や配水管新設工事等を行い、34 億 4 千 8 百万円を支出し、配水管延べ 25,252 メートルを布設しました。また、施設整備事業では、茂庭浄水場次亜塩素素注入設備更新工事や福岡浄水場給水車注水補給設備工事を行ったほか、災害時の被害拡大防止や迅速な災害復旧が可能となるよう配水ブロックの再編成等を行い、24 億 7 千万円を支出しました。
- 財政状況につきましては、収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）において、総収益 266 億 5 千 7 百万円に対し、総費用 245 億 2 千万円で、差引 21 億 3 千 7 百万円の純利益となっております。
- 以上が決算の概況でございますが、今後とも計画的かつ効果的な事業運営とサービスの向上に努め、強靱性・安全性や環境先進性・持続性の向上を重視しながら、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて、お客さまに一層信頼される水道事業を目指してまいります。

3. 事業実績

区 分 \ 年 度	単 位	平成25年度 (E)	平成24年度 (F)	対前年度比較	
				増減(△減) (E-F)	比率 (E/F)%
計画給水区域内人口 (A)	人	1,049,330	1,041,659	7,671	100.7
給水人口 (B)	人	1,045,133	1,037,351	7,782	100.8
年間総配水量 (C)	m ³	120,245,287	121,783,863	△1,538,576	98.7
(仙 台 市 配 水 量)	m ³	(116,232,423)	(117,740,445)	(△1,508,022)	(98.7)
(他 市 町 分 水 量)	m ³	(4,012,864)	(4,043,418)	(△ 30,554)	(99.2)
配水能力	m ³ /日	429,215	429,115	100	100.0
一日平均配水量	m ³	329,439	333,654	△ 4,215	98.7
一日最大配水量	m ³	361,606	366,751	△ 5,145	98.6
使用給水栓数	栓	427,285	420,586	6,699	101.6
年間有効水量	m ³	116,056,900	116,349,089	△ 292,189	99.7
年間有収水量 (D)	m ³	113,201,886	113,480,466	△ 278,580	99.8
配水管延長	km	3,386	3,370	16	100.5
職 員 数 (管 理 者 除 く)	人	406	406	0	100.0
普及率 (B/A)	%	99.6	99.6	0.0	-
有収率 (D/C)	%	94.1	93.2	0.9	-

4. 財政状況

国の臨時的制度を活用し、これまで高金利で借り入れていた企業債を、低金利で借り換えることで支払利息の負担を軽減するなど、経営の効率化に取り組みました。その結果、収益的収支において、21 億 3,700 万円の純利益（黒字）となりました。この純利益については、全額を減債積立金（借入金の返済に充てるための積立金）として積み立てました。

(1) 収益的収支

- 水道水をつくり、ご家庭にお届けするための財源と経費です。

収入 266億5,700万円

お客さまからの水道料金 231億400万円	その他 35億 5,300万円
--------------------------	-----------------------

支出 245億2,000万円

純利益21億3,700万円

人件費 31億 4,800万円	物件費など 60億 7,200万円	受水費 64億7,100万円	減価償却費 72億800万円	支払利息 16億 2,100万円
-----------------------	-------------------------	-------------------	-------------------	------------------------

県などから浄水を
購入するための費用

水道施設などの資産価値
の目減り分を毎年の費用
として計上したもの

国などか
らの借入金
の利息

(2) 資本的収支

- 水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費です。

収入 69億3,600万円

企業債 57億3,100万円 (借換債31億9,100万円を含む)	その他 12億 500万円	損益勘定留保資金 など 73億4,200万円
---	---------------------	---------------------------

施設の建設・改良工事のため
に国などから借りるお金

減価償却費などの現金支出を伴
わない費用や減債積立金などを
充当します

支出 142億7,800万円

建設改良費 60億8,700万円	企業債償還金 81億9,100万円 (繰上償還31億9,200万円を含む)
---------------------	---

施設の建設・改良工事のため
の費用

国などからの借入金の元金の返済

(3) 前年度との比較(収益的収支)

(単位：千円)

科目	区分	平成25年度	平成24年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業収益		26,657,203	26,521,011	136,192	100.5
営業収益		24,753,430	24,823,427	△ 69,997	99.7
給水収益		23,725,464	23,865,408	△ 139,944	99.4
受託工事収益		153,194	73,112	80,082	209.5
その他営業収益		874,772	884,907	△ 10,135	98.9
営業外収益		1,889,621	1,685,958	203,663	112.1
受取利息		12,797	16,859	△ 4,062	75.9
不動産賃貸料		35,890	36,357	△ 467	98.7
水道加入金		1,313,156	959,237	353,919	136.9
他会計補助金		478,533	571,241	△ 92,708	83.8
雑収益		47,082	40,783	6,299	115.4
国庫補助金		2,163	61,481	△ 59,318	3.5
特別利益		14,152	11,626	2,526	121.7
固定資産売却益		10,514	7,978	2,536	131.8
過年度損益修正益		3,638	3,648	△ 10	99.7
水道事業費用		24,519,793	24,092,576	427,217	101.8
営業費用		22,786,414	22,151,850	634,564	102.9
人件費		3,147,617	3,229,750	△ 82,133	97.5
物品費		330,325	302,200	28,125	109.3
経費		5,354,294	4,748,786	605,508	112.8
受水費		6,470,778	6,469,379	1,399	100.0
減価償却費		7,207,813	7,154,969	52,844	100.7
資産減耗費		275,587	246,766	28,821	111.7
営業外費用		1,691,438	1,877,133	△ 185,695	90.1
支払利息		1,621,335	1,804,469	△ 183,134	89.9
繰延勘定償却		68,935	70,896	△ 1,961	97.2
雑支出		1,168	1,768	△ 600	66.1
特別損失		41,941	63,593	△ 21,652	66.0
過年度損益修正損		41,217	62,909	△ 21,692	65.5
その他特別損失		385	684	△ 299	56.3
固定資産売却損		339	0	339	257,113.6
当年度純損益		2,137,410	2,428,435	△ 291,025	88.0

(注1) 消費税及び地方消費税抜きの額である。

(注2) 平成24年度特別損失中の固定資産売却損については、決算額は132円である。

(4) 前年度との比較(資本的収支)

(単位：千円)

科目 \ 区分	平成 25 年度	平成 24 年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業資本的収入	6,935,788	3,225,871	3,709,917	215.0
企業債	5,731,000	2,150,000	3,581,000	266.6
固定資産売却代金	23,513	647	22,866	3634.2
出資金	472,393	455,035	17,358	103.8
国庫補助金	57,639	22,906	34,733	251.6
開発負担金	488,298	443,035	45,263	110.2
負担金	111,966	134,494	△ 22,528	83.2
その他資本的収入	50,979	19,754	31,225	258.1
水道事業資本的支出	14,278,160	11,143,056	3,135,104	128.1
建設改良費	6,086,562	5,763,396	323,166	105.6
配水管整備事業費	3,448,246	3,327,900	120,346	103.6
施設整備事業費	2,469,697	2,280,698	188,999	108.3
受託等工事費	168,619	154,798	13,821	108.9
企業債償還金	8,191,598	5,376,022	2,815,576	152.4
その他資本的支出	0	3,638	△ 3,638	皆減
差引	△7,342,372	△7,917,185	574,813	92.7

(注) 消費税及び地方消費税込みの額である。



5. 主な実施事業

■ 基本計画において定められた6つの「施策の基本的方向性」に沿って、平成25年度に実施した主な事業をご紹介します。

※【 】内の金額は平成25年度の事業費です。

(1) 安全・安心で良質な水道水の提供

■ 高度浄水処理施設の導入【約1億5,700万円】

かび臭対策として、国見浄水場に粉末活性炭注入設備を設置する工事に着手しました。

■ 保安体制の充実【約900万円】

配水所などの無人の水道施設98カ所における機械警備を引き続き実施しました。



粉末活性炭注入設備

(2) 安定・信頼の水道システムの確立

① 水運用機能の強化

■ 配水幹線の整備【約2億1,300万円】

災害時に弾力的な水の相互融通を行い、断水などの被害拡大を防止するため、若林配水幹線などの整備を行いました。

② 施設の適正な維持管理と計画的な更新

■ 鉛製給水管の更新【約6億8,200万円】

漏水防止や適正な水質管理の観点から、2,494件の鉛製給水管更新工事を行いました。

③ 施設の耐震化

■ 浄水施設・配水施設の耐震化【約3億9,600万円】

国見浄水場内施設や将監第一配水所の耐震詳細診断などを行いました。

■ 管路の耐震化【約20億5,300万円】

0.2kmの配水幹線や14.3kmの老朽管、災害時に医療の拠点となるNTT東日本病院などへの管路について、耐震性に優れた水道管への更新を進めました。



耐震管への更新工事

④応急給水・応急復旧体制の充実

■ 災害時給水栓の設置【約 800 万円】

より多くの場所で応急給水ができるよう、市内の小学校 13 校への災害時給水栓設置工事に着手しました。(平成 26 年度工事完了)

■ 緊急遮断弁の設置【約 1 億 1,700 万円】

破損した管路からの水道水流出を防止するため、錦ヶ丘配水所・鉤取山配水所に緊急遮断弁を設置しました。

■ 災害時給水機能の充実【約 4,400 万円】

福岡浄水場に給水車用の注水補給設備を設置したほか、給水車 1 台を更新し、容量を 2 m³から 3 m³に増強しました。

■ 長期停電への対策【約 700 万円】

災害時の長期停電に備え、大年寺山配水所における非常用自家発電装置の燃料タンク増設工事に着手しました。

(3)お客さまの視点に立った事業運営

■ 事業・水質などの情報の積極的な提供【約 3,600 万円】

お客さまの関心が高い水質や災害対策に関する情報などを、広報紙、ホームページ及び新たに作成したパンフレットを通じてお知らせしました。また、家庭での水の備蓄を呼びかけるとともに、仙台の水道水のおいしさを実感していただくため、水道水ボトルドウォーター「ごくり◆きらり せんだい」を作成しました。

■ 水道修繕受付センターの開設準備

水道修繕受付センターに係る運営形態・業務内容等の詳細について確定させるとともに、平成 26 年度当初の開設に向けた準備作業を行いました。

■ 地元密着型水道修繕登録店制度の創設準備

お客さまからの給水装置の修繕依頼に対応できる地元工事事業者を分かりやすく紹介する制度の創設に向けた準備作業を行いました。

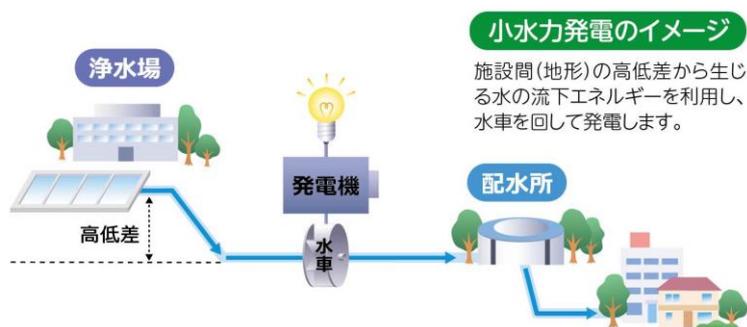


(4) 環境に配慮した事業運営

■ 小水力発電設備の推進

安養寺配水所における小水力発電設備（25kW）の設置工事に着手しました。（平成 26 年度発電開始予定）

また、上追沢沈砂池における小水力発電設備の設置にあたり、官民連携により小水力発電事業者を決定しました。（平成 27 年度発電開始予定）



■ 省エネルギー型機器への切り替え【約 1 億 8,400 万円】

館送水ポンプ場への高効率機器導入や水道局本庁舎への LED 照明設備導入などを行いました。

■ 次世代自動車への切り替え【約 1,800 万円】

公用車 8 台を低燃費・低排出ガスの次世代自動車に切り替えました。

(5) 経営基盤の強化

■ 組織改正による効率化

業務課と営業課を統合して料金課とし、職員数の削減を図るなど、より効率的な事業運営に努めました。

(6) 新たな視点に立った事業運営

■ 国際貢献の推進

JICA（独立行政法人国際協力機構）などを通じた 8 カ国 10 名の研修員受け入れや、IWA-ASPIRE（国際水協会 アジア太平洋地域会議）などにおける東日本大震災の経験を踏まえた情報発信を行いました。



海外技術研修員受け入れの様子